

教団新報

定 価 1部144円(本体133円+共206円)
予約購読料 1年分 千共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 道家紀一
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし



若い、大きな会衆がひとつの礼拝を捧げるため
軽井沢に集った。



日本基督教団 宗教改革 500 周年記念事業

リフォーユース 500 中高生大会

8月9日から11日にかけて、2泊3日の日程で、日本基督教団宗教改革500周年記念リフォーユース500中高生大会が「来て、見なさい」(ヨハネ1章46節)を主題聖句として、恵みシャレー軽井沢を会場に開催された。各礼拝の説教者として、青山学院大学の塩谷直也教師と、北陸学院中学校・高等学校の堀岡満喜子教師が立てられた。沖縄から北海まで全教区から、91名の中高生が集められ、スタッフの教職、付き添いの教職・信徒を含めると200名以上の規模での大会となった。

2014年に御殿場で行われた教団主催の中高生大会以来の再会を喜ぶ参加者もあり、それは教団の若者向けのプログラムが継続性を持っている恵みを表す光景であった。

宗教改革は礼拝改革であり、礼拝に参与するという体験を中高生なりに味わうことを目的とするプログラムが、1日目から始められた。

プログラム2日目の昼食後は、アクティビティから始まった。屋外・屋内スポーツ、離山へのハイキング、旧軽井沢の3教会を巡る散策と買い物、室内遊びとキリスト教に関するDVD鑑賞、賛美、談話の7プログラムに分かれて過ごし、その後の自由時間でも、夕食まで思い思いに過ごすひとときを持った。スタッフの見守りのもと、軽井沢の自然に親しみ、緑の中で憩う中で、学年やワークショップを超える交わりを深める機会が与えられた。

夕食後は、本大会の主題歌を作詞・作曲したシンガー・ソングライター、YURIE氏(深沢教会員)によるコンサートが開かれた。氏の讃美と証しに耳を傾け、共に主題歌を歌って2日目を終えた。

翌日、最終日の早天礼拝は堀岡満喜子牧師の司式と説教により捧げられた。朝食後に最後のワークショップを持ち、各グループはリフォーユース500礼拝に向けて、担当する奉仕の仕上げを行った。10時半から、皆はグループごとにワークショップの成果を主の御前に出し、準備した祈りの言葉や手話賛美、ダンスによる賛美、劇による「思いめぐらし」を通して礼拝を捧げた。塩谷牧師は説教で大会の間に中高生から寄せられた質問に答えながら、ルカ福音書19章が語るザアカイが受けた祝福を説き明かした。祝福と後奏賛美の後、礼拝からの派遣をそのまま解散として、3日間の大会が終了した。

「日独ユースミッション」の訪日・訪独が続けられて16年目になる。2002年、独・ベルリン・プランデンブルク領邦福音主義教会ウィットシュトゥック・ルビン教区の15歳から23歳までの15名と引率者5名を含む20名を2週間に亘り受け入れた。教団全国教会婦人会連合の働きであった。

第9回目となる本年、教団の宗教改革500周年記念事業の一環として、7月23日～8月8日、4回目の訪独が実現した。15名の参加者、4名の協力委員と共に、私は5名の引率の内の1人として参加が許された。

今回はホームステイの他、中学生以上16歳未満のユース5名・引率2名が「クリスチャン・ボー

500年目の礼拝を皆で捧げるために

00礼拝に向けて、担当

領収書発行についてお知らせ

これまで皆さまから頂戴した献金には、漏れなく領収書を発行しておりましたが、郵便料金値上げに伴い、これを原則廃止とさせていただきます(第40総会期第2回常議員会にて了解済)。郵便払込取扱票をご利用になった際に振替払込請求書兼受領証が残りますので、それをご利用ください。銀行口座からお振り込みの場合は、通帳記帳をもって領収の証とさせていただきます。現金の場合は、これまで通り領収書を発行いたします。

なお、どうしても領収書が必要な場合は、お申し付けいただければ発行いたします。皆さまから頂戴した献金を有効に用いさせていただくためにも、この経費削減にご理解くださいますようお願い申し上げます。

2017年8月

日本基督教団事務局
総幹事事務取扱

道家紀一

「日独ユースミッション」の訪日・訪独が続けられて16年目になる。2002年、独・ベルリン・プランデンブルク領邦福音主義教会ウィットシュトゥック・ルビン教区の15歳から23歳までの15名と引率者5名を含む20名を2週間に亘り受け入れた。教団全国教会婦人会連合の働きであった。

第9回目となる本年、教団の宗教改革500周年記念事業の一環として、7月23日～8月8日、4回目の訪独が実現した。15名の参加者、4名の協力委員と共に、私は5名の引率の内の1人として参加が許された。

今回はホームステイの他、中学生以上16歳未満のユース5名・引率2名が「クリスチャン・ボー



ヴストラウの教会での
フェアウェルパーティー

ルターの宗教改革を記念するこの年、多くのイベントがある中で本ミッションは目立たないかもしれない。しかし日独青年の交流と信仰的成長を願う企画として地道に続けられ、参加者・関係者の尊い賜物によって多くの働きをささげることができ、実りを得ることができた。感謝である。

(片岡宝子報)

教会学校の夏期キャンプで毎年、鱒つかみを手供たちとする。川原にいけすを作って、そこに人数分の虹鱒が養魚場から運ばれてきて放たれる。これを手供たちと捕まえる。捕まえたものは昼ご飯の塩焼きとなる。塩が目一杯効いた虹鱒と、大きなおにぎりを川原で子供たちと頑張るのがここの恒例となっている。▼今年のいけす作りは、牧師と高校生とで担当した。いけすがあまり広く深いと魚は自由に逃げ回り捕まえない。そもそも囲いの石が隙間だらけでは魚も川に逃げていってしまう。指が入るような石の隙間でも鱒は頭を入れて逃げ隠れようとする。隙間なく、程よい広さと深さにいけすを作るのだ。この何年かだいたいふコツをつかんだ。川の流れは年によって一定でない。雨の多い年、少ない年でずいぶん違うし、直前の天候にも左右される。その分、年ごとの楽しみがある。今年も一尾も逃すことなく皆の胃袋に収まった。▼復活の主が岸に立たれ命じられた魚は大漁で、その網は破れず収穫を数え祝うことができたと言う。そのように伝道にて求道者を、牧会にて信徒、教職を一人も洩らすことなく、終わりの日の救いを目指したいのである。

I Love Taiwan Mission 2017

都市、地方、そして民族の異なる教会に派遣



台湾・埔里謝緯記念キャンプ場にて

今年も台湾基督長老教会（以下PCT）青年委員会が主催するI Love Taiwan Mission（以下ILT）が「君の名は」というテーマで6月28日

今年も参加者とスタッフを合わせて約120名。ILTの特徴は青年が企画、運営を行っている点である。始めの3日は国内外の青年が集いオリエンテーションを行い、その後10日間台湾各地の教会に派遣される。その後、再度全体で集まって報告会を行う。派遣教会の背景は様々で、都市や地方の違いだけでなく、民族等も異なっている。現地教会での奉仕を通して、国内外の青年が台湾の教会、文化、歴史、人々を更に知り、大きな出会いが与えられる。

感謝する。以下、参加者の報告を一部抜粋し掲載する。

（廣中佳実報）

参加者の感想

垣原希帆（枚岡教会）

私は、マレーシア、香港、アメリカからの3人の青年たちと共に、台湾中部彰化市にある竹塘基督長老教会に派遣されました。教会周辺は田んぼが広がり、近くに小中学校があります。夏季キャンプには教会の子どもたちを含め、80人以上の小中学生が参加しました。夏季キャンプ中は毎日プログラムの終了後の反省会と夜の祈祷会が1時間程ずつ持たれ、毎日就寝前には聖書の時間も与えられ

ました。聖書を読み、信仰を共有し、御言葉を共に読みました。

これらの深く豊かな交わりを、同じ一人の神様を信じる信仰により集まった青年たちと共に持つことで、彼らは本当にキリストの名による兄弟姉妹だと実感し、本当の家族のように受け入れてくれた竹塘基督長老教会は、私にとつての台湾の家となりました。

私は今、実家を離れて一人暮らしをしており、大学近くの教団の教会に通っています。ここは母教会に比べて人数が少なく、特に青年は2、3人で、大学生は私一人です。ILT後、毎日読むようになった聖書と、一人でも声に出して祈るという

ことに、大いに力付けられ第1回青年会を行うことが出来ました。共に聖書を読み、語り合い、祈り合えたのは、私や他の青年や教会にとっても大きなことでした。私は今まで自分の所属する教会を家だと感じたことはありません。それは信仰による交わりが少なかったからだと感じました。今はILTで得た沢山の恵みと愛を基に、教会が日本の青年たちの家となるように、青年会での働きを積極的に行っていきたいです。

（奥山京音（高槻日吉台教会）

私は台湾中部彰化市の路上教会で奉仕したが、この教会では2つの活動

に参加した。

1つ目は、地域の高齢者にお弁当を届ける活動である。この地域は農家が多く、若者は他の地域に移住する。その結果、一人暮らしの高齢者が多くなっている。教会は見回りを兼ねてそれぞれの家を訪問している。

教会の青年たちは病院から買い取ったお弁当を、高齢者の家に届けて、挨拶をしている。こうして高齢者の小さなコミュニケーションへ新たに「教会」を加えることで、彼らの体調面だけでなく、精神面にも良い効果があると思われる。

2つ目は、教会で子供たちの宿題を手伝う活動である。この地域には小さな子供が遊べる場所が少な



左：奥山さん、右から2番目：垣原さん

いため、教会を開放して子供の居場所がつけられた。ここでは教会青年が子供の宿題の手助けをし、宿題の後は敷地内で遊んでいる。

ここでの遊びには、時に聖書のメッセージが込められており、遊びの中で子供は自然とイエスの教えに触れている。また、軽食の前には必ずお祈りをささげており、子供たち

こちらは自然に神に出会う。実際これらの活動を日本で行うのは難しいと初めは考えた。しかし、大切なのは神に奉仕する心であることを、青年たちの行動を通して気づかされた。これらの活動が続いているのも青年たちの奉仕する意欲にある。私たちは、世の悩みに気を取られて大切なことを忘れてはいないだろうか。

教師検定委員会

秋季検定試験願書受付け、実施準備

第2回教師検定委員会が、7月31日～8月1日、教団会議室で開催された。今回は9月12～14日、大阪クリスチャンセンターで行われる秋季教師検定試験の準備に多くの時間を割いた。現在、補教師10名、正教師52名の願書を受付けた。併せて正教師転入志願者1名の審査を行う。

既に課題として受験志願者より提出された旧新約聖書の釈義・説教、神学論文、組織神学論文の採点結果の確認をした。合格点に達しなかった受験志願者にはレポートを提出してもらう。更に、試験当日の補教師の一般宗教史・日本宗教史、旧新約聖書緒論、ギリシャ語初歩、旧約歴史、宗教

教育、教憲教規・宗教法人法、旧新約聖書神学、牧会して行く上で身に着けておくべき基本的な神学的内容を問う試験であり、そのことを通して伝

道者としての召命を問う試験であること、また面接も召命を問う試験であることを確認した。

更に、受験志願者の資格審査、試験当日の委員の責任分担の確認、申請のあった受験志願者の受験費用援助に関し協議した。教師検定規則3条6

号対象者（Cコース受験志願者）2名の認定面接を実施することを確認し、また、1名の受験志願者のCコース受験認定、受験科目認定を行った。

日本伝道のために教団として、いかに教師を検定し、立てるのは、教

第8回夏期研修会

伝道推進室主催・教師委員会後援

教会における葬儀を主題に研修

今年も伝道推進室主催「教師継続教育『第8回夏期研修会』」が、8月15日から17日にかけて開催された。会場は、今年も厚意により日本聖書神学

校であった。参加者は総勢67名（内、講師・スタッフ23名）であった。

主題は5年サイクルの中の「葬儀」とし、教会における葬儀とは何か

を総主題として、7人の講師により主題に触れた講演を聞いた。特に、今年にはトーマス・G・ロング著「歌いつつ聖徒と共に」という書物を土台

として葬儀を考えた。講師は、平野克己（代田教会牧師）、大住雄一（東京神学大学学長）、朴憲郁（同教授）、小泉健（同教授、神保堂（日本聖書神

学校の校長、奥田幸平（葬儀社「輝」会長）、伊藤瑞男（隠退教師）の各氏で、ロングの著書の紹介、旧約・新約からの死と復活について、更には、実際の葬儀での体験や葬儀説教演習と葬儀社からの葬儀の実際を紹介してもらった。

この研修会が8回も続いたことは決して当たり前のことではない。教師

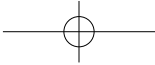


日本聖書神学校を会場として

希望の光でもある。

講演及び礼拝のCD録音は、参加できなかった方にも配付することができ（教団事務局まで、一部2千円）。

（宮本義弘報）



(3)

2017年9月16日

教 団 新 報

(第三種郵便物認可)

第 4868 号

宣教協力学校協議会の新たな取り組み

宣教協力学校協議会運営委員長・明治学院長 小暮 修也

宣教協力学校協議会 (Mission Schools Council・MSC) は、従来の宣教協力協議会 (COC) が2007年に発展的解消をした後に、その働きを引き継いだ団体である。その働きは、日本基督教団を通じ

て来日する宣教師が、加盟学校法人の設置する学校においてその使命を果たすことが出来るようにするために必要な業務を行うほか、加盟学校法人間及び内外の教会・団体との間の宣教協力の進展に資する活動を推進する

ことを目的とする(規約第2条)とある。この目的にしたがって、2015年度より、宣教師支援業務に加えて、3つのプロジェクトを計画し、取り組んでいる。

第一に、「東日本大震災被災地の学校を中心とする中学生支援海外派遣プロジェクト」である。これは、米国日本人特別牧会 (Special Ministry to Japanese・SMJ) 主催のニューヨーク・シエルターアイランドで行われるディスカバリーキャンプに日本の中学生を派遣する取り組みである。これまで、東北学院中学生 (宮城)、宮城学院中学生 (宮城)、ザベリ才学園中学生 (福島)、公

立学校中学生 (福島)、遺愛女子中学生 (北海道) を派遣してきた。このキャンプでは、アメリカと日本の小中学生が約10日間、聖書の学び、祈り、スポーツを通して「共に生きる」ことを体験する。

また、日本からの中学生が東日本大震災の体験を証しすると水を打ったように集中して聞いてくれたとのことだ。このキャンプによって中学生が成長することを願っている。

第二は、「宣教師日本語習得支援プロジェクト」である。これは、故国を離れて日本のキリスト教学校に赴任してきた宣教師が日本語を学び、学生・生徒とより豊かなコミュニケーションができるようにと願い、その学習を支援するプログラムである。すでに5人の宣教師の支援をしてきた。

第三に、「宣教師不在校への宣教師出張礼拝プロジェクト」である。これは、宣教師のいない学校に宣教師を派遣し、礼拝の説教を担当する取り組みである。2016年度には、敬和学園高校 (新潟)、新島学園高校 (群馬)、大阪女学院中学・短大・大学 (大阪)、山梨英和中学校 (山梨) で実施し、2017年度には、酪農学園とわの森三愛高校 (北海道)、東洋英和中高 (東京)、清教学園高校 (大阪)、福岡女学院中高 (福岡) などで実施している。

今後とも、支援と祈りをお願いしたい。



宣教師出張礼拝プロジェクトにて、マイク・シエロ宣教師 (山梨英和中学)

6月26・27日にかけて「教団教誨師会研修会・教区代表者会」が国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われた。研修会は、臨床心理士の今村洋子氏 (播磨社会官、日本長老教会調布南教会員) に「被収容者に対する臨床心理」と題して話してもらった。今村氏は、少年施設での経験から非行に向かう少年たちを「自分を愛し大切に

することが報告された。こうしたことから「人は変わる可能性がある」、「人は信頼する者からのみ学ぶことができる」、「人は大切にされている」という実感の中で安定することが意識させられた。具体的な対処方法として認知行動療法やグループワークなどが紹介さ

れた。さらに、犯罪からの立ち直りについての調査報告があった。そこから、人との出会いと自己肯定感の大切さ、適切な社会的つながりの必要性と、それらを支援できる社会について示唆されるところが大きかった。

教誨師からの発題では、原裕教誨師 (山形刑務所、天童教会牧師)、鈴木恭子教誨師 (美弥社会復帰促進センター、下関西教会牧師) の教誨活動から具体的な働きが報告された。

教誨師だけでなく礼拝を中心とする福音宣教の課題と、それぞれの今後の働きに対する大きな励ましを受けることができた2日間であった。

教団教誨師会研修会・教区代表者会

世界宣教委員会 新しい世界宣教

秋山 徹

世界宣教委員会は、教団から宣教師を送り出し、また海外からの宣教師を迎え、諸外国の教会との交わり、種々の世界宣教団体との交わりを担当する、いわば外務省のような働きをする委員会です。傘下に宣教師人事委員会や韓国・台湾・スイスなど各宣教協約を結んでいる教会との交流委員会など6つの小委員会を持ち、総幹事のもとで3

委員会コラム

とを実感しました。教団の海外教会との絆や海外宣教への取り組みは新しい世紀を迎えています。アメリカや西欧の教会だけでなくアジアやアフリカ、中近東の教会との交わりも欠かせません。教団がどのように世界の



「日独ユースミッション報告会」

◎日時 2017年10月14日(土) 午後4時30分～6時30分
◎場所 日本キリスト教会館4階 A B会議室 (新宿区西早稲田2-3-18)
◎問合せ Tel 03-33202105 41

事務局報

教師異動

下落合就代(上林順一郎) 秋田栖山(主)横山 望 就代 飯田啓子 群馬町 就担 今井浩三 藤沢ベテル 辞担 黒河内信 一関 辞(主)高橋良隆 就代 邑原宗男 豊浦 辞(主)西嶋昭一 就代 小畑太作 大網 就代 三吉 明 白岡 辞担 福島英子 就(主)福島英子 中部学院大学 辞教 笠井恵二

沖縄キリスト教学院 辞(教)神山繁貴

平良川就(代)仲尾次清彦 教師休職 高橋政子 教師隠退 高橋良隆、西嶋昭一、柴田福嗣人 隠退より復帰 近藤十郎、仲尾次清彦 教師退任 外山志都子 第二種教会設立 浦河(伝道所より) 伝道所開設 佐世保東部 759-32 02 佐世保市上原町 749-11 ケアハウ

ス光の子内 教会通信先変更 浦河 059-3451 北海道浦河郡浦河町荻伏町15 元浦河教会気付 教会合併 東京復活(羽生)羽生の森教会設立 348-10 043 羽生市桑崎1 331-2

お詫び・訂正 4864号、3面事務局報欄「聖学院小学校幼稚園就(教)中村健一」を「中村謙一」に、お詫びして訂正いたします。

消息

利川栄宣氏 (隠退教師)



16年9月12日逝去、89歳。大阪府生まれ。62年日本聖書神学校卒業。63年より横浜菊名、横浜岡村教会を牧会し、05年隠退。遺族は妻・利川明子さん。

吉田傳治氏 (隠退教師)



17年2月8日逝去、89歳。栃木県生まれ。52年受允、88年受按。52年より毛呂、大塚平安、浪江、安積、勿来教会を牧会し、05年隠退。遺族は息・吉

田信治さん。加藤善治氏 (無任所教師)



17年4月4日逝去、67歳。愛知県生まれ。74年関西学院大学大学院卒業。83年より聖和大学、関西学院大学に12年まで務める。遺族は兄・加藤三之さん。

澤村ツネ氏 (隠退教師)

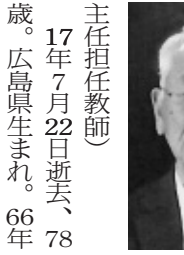


17年6月25日逝去、89歳。東京都生まれ。54年日本聖書神学校卒業。57年より茅沼伝道所(60年愛光伝道所に改名、70年廃止)、栗山、小樽教会を牧会し、思恩会に82年まで務め、06年隠退。遺族は妻・西上立子さん。

は夫・澤村政一さん。和泉糸子氏 (隠退教師)



17年7月16日逝去、72歳。兵庫県生まれ。95年受允、98年受按。95年より我孫子教会を牧会、16年隠退。遺族は娘・細川順子さん。



西上信義氏 (本庄旭教会主任担任教師)

17年7月22日逝去、78歳。広島県生まれ。66年東京神学大学院卒業。同年より延岡三ツ瀬、八幡鉄町、伊勢崎、中目黒、渋谷、水戸自由が丘、本庄旭教会を牧会。遺族は妻・西上立子さん。

伝 道 報 告



七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

東日本大震災、そして教会復興後5年を迎えて

東北教区・岩沼教会牧師 古屋 博規

た(献堂87年目)。

2011年3月11

日、東日本大震災により、建物に亀裂が入り、一時は、赤紙が貼られた。使用不可能となりました。しかし、岩沼市民の方々と、教会内外の多くの方々の支援を受け、僅か1年もたたないうちに教会建物が復興できました。教団からの1400万円もの多額な借入も、早くに返済することが出来、感謝に堪えません。

毎年、多くの方々に、岩沼教会の復興を覚えて、力強い励ましを頂いています。

昨年7月には、京都教会(入治彦牧師)の方々が、暑い中、車で茶道具を運んで、美味しいお抹茶を振る舞って下さいました。感謝致します。

また、アドヴェント第一主日には、宮城学院を卒業され、現在チェンバロ奏者として、ストックホルムで教鞭をとっておられる鎌田まゆみさんが、ソプラノのリス・マリィさんと一緒に復興チャリティー

コンサートを開いて下さり、90名の方々が集められ、チェンバロの美しい音色と、澄んだ歌声に心から感謝致しました。この時に集められた献金は、被災地の支援のために、教団に全額を送らせて頂きました。参加された方の中には、教会に来ることが初めての方々、石造りの教会に関心をもっておられる方々もおられました。

つい先日、「岩沼市史」が、岩沼市教育委員会から届けられました。518頁にもなるその資料「資料編IV近代」には、現、岩沼保育園が岩沼幼稚園だった頃のことと記されており、岩沼幼稚園設立者―岩沼日本基督教教会とあり、教会創立の40年祭のことや、教会移転(奥州街道から現住所へ)、また、教会堂平面図、建物配置図、社会生活の項目には、(宗教、教育)の中で、昭和初期の幼稚園バザーのことや、文化的生活改善に一翼を担っている様子など、詳細に書かれてありました。

岩沼市において、132年の歴史を数える岩沼教会が、市の歴史資料にしっかりと位置付けられているということを知り、改めて「この地にある教会としての歩み」の重みを感じた次第です。

これらのことを覚えて、これから、この地にあって地域に根ざした教会として、保育園に関わる方々も共に、「この地にある教会としての歩み」を続けていくことが出来ますようにと、願わずにはおられません。

まだまだ東日本大震災の傷跡は深く、互いに支え合い祈り合っ、忘れることがない様に励んでまいります。主の御名によって祈ります。



教会外観と礼拝堂。外観左側にはぶどう館、右側には岩沼保育園が見える。中央に筆者。

キリスト教学校人権教育セミナー

第28回キリスト教学校人権教育セミナーが8月18～19日、共愛学園(群馬県前橋市)で開催された。今日、会いに行こう―今、知る、出会う、共に生きる―の主題の基に開会礼拝、基調報告、主

題講演、リレートーク、分科会、聖書研究、派遣礼拝などのプログラムを進められた。

主題講演は群馬県出身の東京基督教大学の山口陽一教授が「群馬県で考えるキリスト教学校の教育的使命」と題して行われた。新島襄と内村鑑三が群馬県出身だが、群馬県にキリスト教を根付かせた柏木義円、住谷天来、周再賜といった牧師の行った人権の尊重と獲得の歴史を語った。特に柏木義円の公娼廃止(群馬県は全国初の廃娼県)、臣民教育廃止、非戦論などの思想は群馬のキリスト教及び共愛学園、新島学園の教育の中に受け継がれていると語った。

分科会では5つのテーマに分かれていた。①部落差別とどう取り組むか、②学校とセクシュアル・マイノリティ、③在日外

(豊川昭夫報)

国人の人権、④子どもの精神世界とどう向き合うか、⑤発達障がい児者と共に切り拓く未来。どのテーマも「人権教育」という一点で互いに結びついている。分科会前に各分科会でのような話を

する代表者がリレー

トークをし、また2日目にグループに分かれて各分科会でのような話がされたかの説明があり、各分科会の課題を共有することが出来た。聖書研究は山口里子さん(日本フ

エミニスト神学・宣教セ

ンター)の「教師と呼ば

れたイエス―その生き

方、語り方は?」と題し

て行われた。関田寛雄牧

師の派遣礼拝に続いて

「全国キリスト教学校人

権教育研究協議会」総会

をもって終了した。

今回初めての参加で緊

張感が漂うセミナーと思

っていたが、笑顔が一杯

で暖かいキリストの愛を

感じる2日間だった。分

科会では在日外国人の子

どもの「自分のためにこ

んなにも考えてくれて感謝

です」と言葉が心に残

った。

東京教区宗教改革50周年記念 福音伝道大会

◎日 時 2017年10月9日(月・祝)

午後2時～4時15分

◎場 所 青山学院大学カウチャー記念礼拝堂

◎問合せ 東京教区事務所

(Tel 03-3203-4270)



梶原 友広さん

主において喜ぶ人生へ



1978年石巻生まれ。2012年に受洗。石巻山城町教会員。

「幼い頃は、教会の庭がいつもみんなの遊び場でした。梶原友広さんは懐かしそうにそ

う語ってくれた。小学生の頃

は学校から帰ると自宅の隣の

教会で、友達と暗くなるまで

遊ぶのが毎日の楽しみだっ

た。しかしその時にはまだ、

日曜日に礼拝堂に足を踏み入

れることはなかった。

やがて成人したとき、自宅

のポストにクリスマス・イブ

礼拝の案内チラシが入ってい

た。ご近所付き合いのあった

当時の牧師の誘いもあったク

リスマス・イブ礼拝に初めて

参加した。それが生まれて初

めての礼拝だった。それ以来、

年に一度クリスマス・イブに

は教会の礼拝に参加するよう

になった。

転機が訪れたのは2011

年3月11日に起こった東日本

大震災。自宅は少し高台にあ

ったため、津波の直接の被害

はなかったが、最愛の叔父が

犠牲になった。大好きだった

叔父を助けてあげられなかつ

た。しばらくはその無力感に

苛まれた。そうした中で「神

さまにすべてを委ねて、慰め

を与えられたい」という思い

に駆られて、日曜日の礼拝に

足を運ぶようになった。

毎週の礼拝を通して「自分

自身は無力だが、神さまに祈

ることではある。このことへ

と目が開かれていき、次第に

「イエス・キリストが自分の

強く願っている。

ける奉仕のために派遣している

らったということであった。

これは、同講師が以前、地方

の教会で奉仕した経験があるこ

とから教会に提案したとのこと

ではなかったが。

このことは、地方の小規模教

会にとってはとてもありがたい

ことである。すでに秋田地区内

のある教会ではそれを利用して

同講師に来てもらい(何年か待

ったとのことであるが)、礼拝説

教と特別集会での奉仕をして

も

教団全体における 宣教協力

7月、奥羽教区秋田地区において、第11回秋田地区修養会が開催された。秋田地区内の16の区修養会はそれを利用したものではないが、講師より約90名が集い、講師より「主の祈り」についてじっくりと学ぶことができた。一教会ではなかなか招くことができない講師を、地区や教区が主催する集会においてお招きし、その恵みに与ることができることは本当に幸いなことである。

ところで、同講師が牧師をしておられる東京のD教会では、一度、交通費を教会が負担して、同講師を地方の教会にお

(教団総会書記 雲然俊美)